推しの子

札幌市医師会
東札幌メンタルクリニック
原田（はらだ）　研一（けんいち）

2022年の大晦日、中学生の娘、妻の家族３人でNHK紅白歌合戦を視聴していた。すると50代のおじさんが全く知らない歌手やグループが次々と出演していた。その中でも特に驚かされたのは韓国のいわゆるK-POPのグループが複数出演していたことである。ここ最近は視聴率が低迷しているとは言え、国民的番組にK-POPグループが多数出演とはいかがなものか？と保守的な考えも脳裏をかすめたが、これもマンネリ打破に向けたTV局の工夫・努力と考えれば納得できる面もある。

実際にK-POPを視聴してみて惹かれたのはダンスの精緻さであった。複数人のダンスが手の指先から足のつま先までビタッと揃っている。これは日本のなんとか坂46とか48とかのお遊戯とは比較にならない、というか比較しては失礼な程のクオリティで、もはやアートである。曲自体も日本のいわゆるJ-POPとは趣が異なり、おじさんの耳にも鮮烈で印象的であった。

疑問点があれば速やかに調べるのは研究者や医師にとって必須の素養であるから（？）、それらのK-POPグループについてもすぐに調べてみた。すると、とある女性６人組グループのメンバーのうち１人は日本人であった。番組視聴時点でその子は18歳。若い！　さらに掘り下げて調べてみると14～15歳にして単身渡韓して練習生となり数年間の苦労の末、オーディション等を受けたりしてグループメンバーの座を射止め、メジャーデビューを果たし、そして紅白に出場。これはもはや立派な凱旋帰国ではないか！　自分が14～15歳の時に何をしていた？　特に目指すものもなく、ちょっと悪い仲間と街を徘徊したり、有り体に言えばグレていたではないか！　すごいよ、この子。同語反復だけど尊敬しちゃう、リスペクトしちゃう！

そして最も印象的であったのはその子の名前がうちの娘と同じだったこと。はい、決定。今後、我が家は総出で、この子、およびこのグループを応援します。ということで、紅白から１か月半後の2023年２月には娘の引率者として横浜でのコンサートに行って、グッズも一通り購入してきました。アイヴ（IVE）というグループのREIさん。はいはい、この子が我が家の、そして私の推しの子です。

最後に精神科薬物療法専門医としての私見ですが、抗精神病薬ではアリピプラゾール、抗うつ薬ではエスシタロプラム、不眠症治療薬ではレンボレキサントが私の推しの子です。

定年と・・これから

帯広市医師会
JA北海道厚生連帯広厚生病院
柳澤（やなぎさわ）　秀之（ひでゆき）

私は、道東・十勝地方の基幹病院、帯広厚生病院で消化器内科に勤務しております。現在の病院で勤務は、初期研修を含めて30年となり、今年、当病院での定年を迎え、仕事に一区切りつけることになります（嘱託で続ける予定で、それほど変わらないかも）内視鏡検査・治療を続けてきましたが、この年齢まで、続けるとは思っていませんでした。今後も体力や視力が維持できれば、可能な限り続けようと考えております。

定年にあたり、今までの仕事の整理をしようと思いつつなかなか進まない現状の中、思い出すのは、３年前に亡くなった父のことでした。

父は、空知の片田舎で、50年以上前に祖父の住む地に開業し、長年にわたり地域の医療を支えてまいりました。その町の教育や地域への貢献は多々あり、叙勲も受けました。自身の医院は、20年程前に閉院しましたが、90歳になるまで近隣の施設で仕事を続けておりました。

病気が判明してから２年半程過ごし、その間も運命を受け入れるかの如く、平穏に過ごしておりました。その心中は計り知ることはできませんが、家族に残した手紙には、家族への思いのあふれた言葉が並んでいたことが忘れられません。葬儀がコロナ禍で盛大にできなかったことが残念でしたが、ライオンズクラブの方が棺を送り出し、町の方々に手を合わせていただき、旧知の先生が新聞のコラムで取り上げてくださいました。

私も父の姿を見て、医師を目指しました。父は、医師としての先輩ですが、自分がわからないことがあれば、息子にも質問し、先輩風を吹かせることなく、医師として対等に接してくれました。その父もやはり人の親、私が大学に合格したときには（多少時間がかかりましたが）大喜びし、孫が生まれると喜んですぐ会いに来て、成長を楽しみにしてくれました。

最近、実家を整理していると、いろいろと整理されており、自分の寿命も考えつつ、自分自身の終活について、ずっと考えていたのだと思います。

私も、定年を迎えるにあたり、自分の終活についても考えます。いつまでこの仕事を続けられるか、そして、いつ仕事を辞めて悠々自適に過ごせるかなど。父の寿命を考えると、まだ30年、いやあと30年？かなと。

これからは、もう少し余裕のある生活にできればなどと考える今日この頃です。